

新たな経口の肥満治療薬 orforglipron

経口投与が可能な GLP-1 受容体作動薬 orforglipron の国際共同第 3 相臨床試験結果が発表されました。

体重のベースラインからの変化は、3mg 群が -4.5% (-4.2kg)、12mg 群が -5.8% (-5.2kg)、36mg 群が -7.6% (-7.2kg)、プラセボ群が -1.7% (-1.5kg) でありました。

安全性に関して、最も多かった有害事象は軽度～中等度の消化器症状であり、下痢、消化不良、吐き気で、消化器症状の多くは、投与量を増加する段階で発生しました。